

# ホロコースト悲劇伝える

倉敷市・茶屋町小5年 井上 南風



この記事のバイオリンは、ただのバイオリンではありません。実は、とても悲しい過去を持つバイオリンなのです。

テルアビブに住む楽器職人のアムノン・ワインシュタインさんは、ホロコーストの悲げきを受け、犠牲になったユダヤ人のバイオリンを修復して、コンサートで使ってもら

う活動をしています。わたしはワインシュタインさんのこの活動に賛成です。

バイオリンを直している時、ホロコーストのすさまじさをワインシュタインさんはひしひしと感じていると思います。バイオリンのきずを見るたびに、ワイン

シュタインさんはそれぞれのバイオリンの「昔」を想像し、むねがはち切れそうになりながら、平和をのぞむ気持ちでどんだん大きくなるのではないのでしょうか。

また、このバイオリンを使いコンサートで演奏すること、とても良いことだと思えます。お客さんが今まで思っていた「遠い昔の出来事のようなホロコースト」が、もっと身近な、現実の出来事として感じてもらえるからです。きっとこのバイオリンの悲しく切ない音色が観客一人一人の心に響き、今はもういないユダヤ人の人達の代わりに、ホロコーストの悲げきをしっかりと伝えてくれるはずですよ。

風化させず、「平和を願う心」を持ち続けていこうと呼び掛けています。

## ホロコースト 悲劇伝える

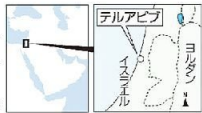
イスラエル



第2次世界大戦中、ナチス・ドイツによるホロコースト（ユダヤ人大虐殺）の犠牲になったユダヤ人が持っていたバイオリンなどを修復し、コンサートで演奏に使ってもらう取り組みがイスラエルで進められています。

中心的な役割を果たしているのが、テルアビブに住む楽器職人のアムノン・ワインシュタインさん(76)＝写真＝です。ホロコーストの悲劇を経験したバイオリンやチェロを採し出し、これまでに60丁を修復しました。イスラエルだけではなく、アメリカやドイツでも演奏されました。

修復されたバイオリンの中には、ポーランド南部のオウシュピッツ強制収容所にいたユダヤ人が持っていたものもあります。ワインシュタインさんは「バイオリンが伝える物語に耳を傾けてほしい」と話しています。(AFP＝時事)



2016年8月28日付 さん太タイムズ

もういないユダヤ人達の「平和を願う心」は、このコンサートを通じて、次の世代へと受け継がれていくと思います。まだ子どものわたしたちも、このコンサートでバイオリンの音色に耳を澄まし、心でしっかりと聴くことで、この活動に参加できると思います。そして、一人一人、平和をねがうことから始めることができると思っています。もう二度と同じ間違いを起こさないために、みんなが意識を持って取り組んでいかなければなりません。

ホロコーストの悲劇を伝える楽器を修復し、コンサートで演奏してもらおう取り組みに共感。悲劇を

### 寸評

(C) 山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。